

宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポートNo.24

石巻 出前寺子屋「検定合格講座」

◆活動報告その24[2012年7月1日]

若きスタッフを加え出前寺子屋に新風

早くも一年の半分が経過した7月1日、石巻は雨雲が低くたれこめ、久々の梅雨空である。スクーリング24回目にして初めて、専任の指導スタッフを迎えることとなった。支援団体JEDROへ提出した活動計画に、東北大学の学生を支援スタッフとして雇用する旨を加えておいた。少々大げさだが、被災地域雇用の促進というわけだ。これが認定されたので、東北大学の村山准教授に学生さんの募集をお願いしておいたのだ。さっそくこれに応募してくれたのが男子学生3名である。大学院文学研究科修士1年の米澤さんは、岩手大の学部生時代に塾講師の経験があり、即戦力が期待できる。文学部3年の雨宮さんは村山先生のゼミ生で、先生からの募集情報で即応募、長野県上田出身だ。雨宮さんの文芸サークル仲間の小野さんも文学部3年で、栃木県宇都宮の出身である。岩手、長野、栃木そして我々は千葉と、はからずも東日本各地から参集した寄り合い所帯だが、震災復興支援活動にはふさわしいスタッフ構成ではないだろうか。

午前10時、仙台を出発。運転手の谷村をふくむ5名で定員いっぱいのレンタカーは、仙台東部道路から三陸自動車道を走り一路石巻へ向かった。車中の1時間余が貴重な情報交換の時間となった。こちらからは、これまでの経緯を説明し今日の取り組みを綿密に伝える。彼らからは大学のこと仙台での生活の様子など、一通りの経歴を聞き取る機会となったのである。

12時30分、予定を早めて会場に入る。手際良く教室を設営し、和枝先生を囲んで英検指導の手順を打ち合わせる。今日は3名とも英検講座を担当していただくこととした。その様子は和枝さんから報告する(後述)。

さてこの日の出席状況は、漢検講座10名に英検講座はI3名で、合わせて23名である。3回目の漢検が実施された直後で、4名の卒業生があったこともあり、漢検組が英検組を下回る結果となった。これに対して指導スタッフは前述の大学生3名に石巻の佐久間さん、それに我々を2名を加え6名であった。



石巻市立門脇小学校で和枝さんから被害状況の説明を受ける米澤、小野、雨宮さん(左から)。

ところでこの日、6月実施の漢検の結果を発表した。受験者16名中12名の合格が確定した。内訳は2級8名、準2級2名、5級1名、6級1名とレベルはきわめて高い。これまで3回の漢検の実績は58名受験で合格者は52名である。内訳は別表の通りであるが、合格率89.6%は特筆ものといえよう。(報告:谷村志厚)

英検講座急増、新規募集停止へ

2011年7月10日に石巻市立湊小学校避難所で支援活動を開始してから、まる1年が過ぎた。英検講座は、今日現在13名の方が英語学習に取り組み、本日新たに1名の参加申し込みを受けた。参加者が順調に増加をしていて、支援をする側に立つ我々にも張り合いが出てきた。

午後1時30分、英検の5級、4級、そして2級講座が同時に始まった。5級講座は4人の中学1年生が、命令文の表現を学習した。今日もまた、全員が宿題をキチンと済ませており、60分授業で集中力も途切れはしない。指導する私(谷村和枝)は、4人の顔を見て、返答の英語を聴いて、彼らの進歩を感じ、楽しいことこの上ない気分であった。

一方、同時にスタートした4級講座は異色であった。授業の形態は、生徒2人に対し教師1人という個別指導で何も変わったところはない。しかし、指導をした東北大文学部3年の小野さんには、特異な体験となったと思われる。おそらく小野さん自身の親より年上であろうCさんとTさんに、There is～の英語構文を指導したのである。30年以上のブランクを経て英語学習を再開したCさんとTさんの声と今日ばかりは先生役割の小野さんの声が、パティション越しに時々聞こえて来た。そして実は、今日、Cさんは授業開始前、私に手編みのサマー・ベストをこっそりとプレゼントしてくれた。数十時間をかけて、私の為に編んでくれたのである。石巻での心の交流の深まりを実感して、嬉しさがこみ上げてきた。



2対1の個別指導は少々ぜいたくだが、年齢も学力もばらばらな受講生では致しか方ないところか。漢検とは違い英検指導の難しさを実感する。

石巻 出前寺子屋 「検定合格講座」の仕組み

活動期間：第Ⅰ期 2011年8月16日～2012年2月4日

第Ⅱ期 2012年2月19日～6月17日

第Ⅲ期 2012年6月16日～11月10日

①スクーリング(漢検・英検学習)

2011年8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、2012年1月8日、22日、2月4日、19日、3月4日、18日、4月1日、15日、29日、5月13日、27日、6月2日、9日、17日、7月1日、22日、8月5日、26日、9月9日、23日(以上会場確定分)

②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所

③検定受験(第Ⅲ期)

平成24年度第2回英語2012年10月13日

平成24年度第2回漢字2012年11月10日

④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民

⑤受講者特典 教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

さて、小野グループの声を凌駕するボリュームで聞こえてきたのが雨宮さん指導のグループの声であった。個別指導形態も、学習内容も小野さんグループと同じであるが、受講をしている中学1年生M君が、純粋に生じた疑問を質問として新米雨宮先生に連発していたのである。指導・受講の立場は違っても、2人の波長はそれなりにかみ合っていたようで、「次は、そうきたか」と雨宮さんは質問を受けとめ、雨宮流に流していたようである。ちなみに、東北大での雨宮さんの専攻は倫理学であり、准教授村山先生の教え子でもある。

この4級学習グループから少し離れて、次回2級を受検する高校3年生Hさんが、東北大英文科修士1年の米澤さんから指導を受けていた。静かに高度な授業が進められていた。

受講生の言葉に復興道半ばを実感

フラワー・アレンジメントの休憩を挟んで、3時から私は米澤ペアの指導で3級講座が開催された。このフラワー休憩の時間に、今回漢検2級を合格したWさんから英検講座の受講申し込みを受けた。高校生だった時、「2次面接試験があった検定を受かった」と言う彼女に、私は「それなら、英語の辞書はありますか」と言ってしまった。「流されました」と彼女は応えた。彼女の自宅は被害の大きかった南浜町にあった。隣で今回準2級の漢検を合格したWさんのお母さんが「全部流されました。条例で、南浜町での家の再建は禁止されました」と補足の説明をしてくれた。自らの言動の軽率さを反省すると同時に、復興はまだ道半ばであることを痛感した。Wさんには準2級教材を送る約束をした。そして、英和・和英辞典も持参する次回の出前寺子屋は7月22日に開催される。



一月ぶりのフラワーアレンジメント。講座参加者23名全員参加で、和気あいあい、笑顔があふれる。

過去3回の漢字検定実績・58名受験中合格者52名

2級-13名、準2級-14名、3級-12名、4級-4名、5級-4名、6級-3名、7級-2名 (小中学生16名、一般36名)

ご支援ありがとうございます

当活動は支援参加者個人の負担と、ご援助をいただいた皆さんの浄財で運営しております。2012年6月17日の活動からは、日本キリスト教協議会・震災対策室(JEDRO)から活動資金支援をいただいております。

主管:AIM学習セミナー(私塾ネット会員・松戸市)

後援:全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)